

備前市事務事業評価シート

事業の概要							
事業開始年度	昭和59年度～						
総合計画	大項目	基本目標	04	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	根拠法令・例規等	沿岸漁場整備開発法	
	中項目	基本施策	01	豊かな食を支えるまちづくり	担当課(室)	農林水産課	
	小項目	施策	03	水産業	職・氏名	参事・藤原弘章	
事務事業名		02	栽培養殖漁業資源回復等対策事業		電話	0869-64-1836	
						このシート作成に要した時間	1.5 時間

事業の意図する成果とつなげる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	地元漁業協同組合等
目的(何のために)	漁業資源の回復と安定的な漁獲量を維持するため、岡山県栽培漁業センターで生産するとともに、尻海・大畠中間育成場で中間育成された種苗を放流し、水産物の安定供給の確保及び漁業生産の安定と向上に資する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	水産物の安定供給の確保及び漁業生産の安定と向上

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績			
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	水産資源の維持管理支援事務	平成14年度から日生町漁業協同組合ではサワラ資源の回復を目指してサワラ種苗の中間育成と放流に取り組んでいる。こうした資源管理の取組に対して支援を行う。平成22年度補助額は20千円。	
	県栽培漁業負担金	岡山県栽培漁業センター等で生産した種苗を県下3ヶ所の増殖場(尻海・大畠・寄島)において中間育成し、県下の各地先に放流する事業に対する地元負担金。平成22年度負担額は529千円。	
	栽培漁業・養殖業の支援事務	つくり育てる漁業の中核をなす栽培漁業及び養殖業、特にカキ養殖に関する外国人研修生受入事業の支援を行う。	

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
決算額	直接事業費	千円	998	705	549
	必要人員(人件費)	千円	0.11人	1,020	0.06人
財源	事業費	千円	2,018	1,213	1,215
	国県支出金				
	受益者負担				
	繰入金				
その他()					
一般財源			2,018	1,213	1,215
受益者負担比率		%	-	-	-
結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
結果指標	説明		サワラの稚魚を2週間程度中間育成した後、放流した尾数		
	結果指標量	事業	7,116	6,916	11,524
	対前年比	%	97.2%	97.2%	166.6%
	活動コスト	円	494,000	243,000	311,000
単位当たりコスト			69	35	27

(平成22年度事業)

事業の成果						
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値	
		目標値(A)	60	60	60	60
		実績値(B)	62	35	51	到達目標値
歩留まり(%)		103.33%	58.33%	85.00%	60	

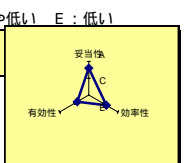
サワラ放流尾数/サワラ受入尾数
 香川県独立行政法人水産総合研究センター屋島栽培漁業センターで生産されたサワラ種苗を受入、中間育成後、放流する。歩留まりが高いほど放流効果がある。

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	妥当性評価 <A~E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	B
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	C
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	D
	目的達成度		
有効性の評価	市民参画度		

事業の目的やその数値目標を留意しながら効率性を評価

進行年度(H23年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	サワラ種苗の受入、中間育成及び放流活動に対する人的支援及び補助金交付。平成23年度からは水産資源(サワラ)回復事業補助金については支出をしない。					

総合評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い
栽培漁業は「つくり育てる漁業」の中核をなす施策であり、資源管理意識も漁業関係者に浸透している。国、県の機関の動向を見極めながら、市としてできる範囲の協力が必要である。	評価区分 <A~E>	C



平成24年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	サワラ種苗の受入、中間育成及び放流活動に対する人的支援は継続するが、補助金交付については見直しを行う。					